

□最近の活動状況

【福島経済同友会創立70周年記念式典】

—1月26日(金) ウェディングエルティ—

参加会員数 70名

当会創立70周年記念式典を、(公社)経済同友会、東北・北海道ブロックからご来賓をお迎えし、福島市の「ウェディングエルティ」にて開催しました。

始めに北村代表幹事が、開会挨拶で能登半島地震により被災された方々へお見舞いの言葉を述べ、「これからも各種活動を通じて本県経済の発展に寄与し続けて参りたい」とのお話がありました。

記念講演会では、講師に笹川平和財団の渡部恒雄上席研究員をお招きし「2024年米国大統領選挙と国際秩序の行方」をテーマにご講演いただきました。この講演会は一般公開とし約100名が出席、タイムリーな米国大統領選挙や国際情勢など分かりやすいお話だったと大変好評でした。

記念式典では、芳見代表幹事が「発足以来、地域の諸課題を研究し、経済人の立場からさまざまな活動を展開してきた。今後も活動をより活発化していく」と挨拶しました。川俣町の和太鼓演奏者遠藤元気氏による祝太鼓の披露の後、渡邊副代表幹事の発声での乾杯にて懇談、会員同士の親睦が大いに深められました。(講演録は次号掲載予定です)



北村代表幹事



芳見代表幹事



講師 渡部恒雄氏



講演会場風景



遠藤元気氏



乾杯風景

【第8回朝食勉強会】

—12月12日(火) クーラクーリアンテ・サンパレス—

講 師 福島国際研究教育機構 理事長 山崎 光悦 氏

テーマ 福島国際研究教育機構の創造的復興への挑戦

～未来を拓く科学技術力・産業競争力の拠点を目指して～

参加会員数 43名

(講演要旨)

日本のイノベーション力が弱体化しています。その主な原因は、常識を覆す技術的ブレークスルーができていないこと、若者、技術者、現場の挑戦的提案を受け入れるリーダーシップが不足していること、クローズドイノベーションがもたらす製品要件の追究不足や技術開発スピードが欠如していることにあると考えます。

2014年に金沢大学の学長に就任しました。当時は、教育のグローバル化の立ち遅れ、領域を融合した組織的な研究やグローバル課題解決に係る研究が不十分、大型競争的資金の獲得が他の有力大学と比べると見劣りするなどの課題がありました。大学改革を推進するため、研究力強化に向けた環境整備、教育プログラム改革、徹底した国際化などを戦略の柱とする「YAMAZAKIプラン」を策定しました。研究力強化のために最先端研究所を設立、教育改革として文理融合型教育などを実施するなど成果を上げることができました。

日本では社会課題が山積みになっており、第四次産業革命による技術革新が課題解決に有効だと言われています。第四次産業革命が及ぼすメガトレンドは、物理的には自動運転、3Dプリンタ、先進ロボット、新素材が目度の高い分野です。デジタルの観点ではIoT、ブロックチェーン、オンディマンドなどがあります。

2023年4月、福島国際研究教育機構(F-REI)は法律に基づき国が設立した特別な法人であり、私は岸田総理から初代理事長として任命されました。F-REIのミッションは、福島をはじめ東北の復興を実現するための夢や希望となるものであると共に、わが国の産業競争力を世界最高の水準に引き上げ、経済成長や国民生活の向上に貢献する、世界に冠たる「創造的復興の中核拠点」を目指すことです。F-REIの役割は、5つの研究分野(ロボット、農林水産業、エネルギー、



講師 山崎光悦 氏

放射線科学・創薬医療、原子力災害に関するデータや知見の集積・発信)での研究開発、その成果の産業化、人材育成、司令塔機能を担うことです。

F-REI設置の効果が広域的に波及するよう、地域の市町村や住民、企業・団体等との間で様々な形のパートナーシップで連携し、F-REIの施設の中だけでなく、施設の外も含めて広域的な実証研究フィールドと捉え、「世界でここにしかない多様な研究・実証・社会実装の場」を実現し、国際的に情報発信して参ります。

F-REIの担うこれらの重要なミッションは、一朝一夕に達成できるようなものではありませんが、一つ一つ成果を積み上げ、福島のため、日本のために貢献できるよう全身全霊で取り組んで参ります。未来の浜通りが、雇用と賑わいを取り戻し“常磐カルフォルニア”と呼ばれるような魅力ある地域にしたいと考えておりますので、ご支援ご協力をお願いします。

(文責：事務局)

□今後の予定

【第11回朝食勉強会】※2024年度より、原則毎月第2水曜日に朝食勉強会を開催します。

日 時：2024年4月10日(水)

会 場：ウエディングエルティ

講 師：JA福島中央会厚生連最高顧問・前全中副会長理事 菅野孝志 氏

【第36回全国経済同友会セミナー】

日 時：2024年4月18日(木)～19日(金)

会 場：フェニックス・プラザ 他

テーマ：「どうする！人口減少 NIPPON～“幸福度日本一”の地で考える」

【2024年度通常総会】(詳細決まり次第ご案内申し上げます)

日 時：2024年7月1日(月)

会 場：ウエディングエルティ

【第47回経済同友会東北・北海道ブロック会議】(詳細決まり次第ご案内申し上げます)

日 時：2024年10月17日(木)

会 場：ホテル青森

□事務局だより

○2023年12月から2024年3月に入会・変更のありました会員を紹介します。(敬称略)

会員交代	 <p>2023年12月交代 なりしげ あやお 成茂 彩生 朝日システム(株) 代表取締役社長</p>
------	--

引続き会員増強にご協力をお願い申し上げます。(2024年3月8日現在 会員数103名)

福島経済同友会のホームページにて、活動状況や今後の予定などいち早く掲載していますので、ぜひご覧ください。URL：<https://www.fukushima-doyukai.jp/>

編集日誌

- ◇創立70周年記念講演会・式典に、ご来賓ならびに会員の皆さまにご出席いただき盛大に開催することができました。誠にありがとうございました。
- ◇式典を開催するにあたり創立60周年の時の資料や写真などを見返す機会がありました。10年も経つと昔のこととなってしまおうという意味の「十年一昔」という四字熟語がありますが、この10年間は、世の中の移り変わりが激しく、技術やサービス、文化の進化によって目まぐるしく変化したため時間感覚のスピードが速く感じられました。
- ◇当会の10年を振り返りますと、被災地の経済同友会として各地経済同友会の支援のもと被災地の現状や復興のあり方について、あらゆる機会を捉え全国に向けて発信してきました。復興の歩みをIPPO IPPO 着実に進んで参りましたが、環境問題や少子高齢化などの社会課題に加え、原発の廃炉に向けた問題などもあり福島県は課題先進県です。
- ◇2024年度も会員同士で学び・高めあう福島経済同友会として、「FUKUSHIMA」の未来を皆さまと共に考えていく機会を設けて参りますので、ご参加のほどよろしく願います。(今野)

□会員企業紹介 【第36回 アサヒ通信株式会社】

今回はアサヒ通信株式会社の菅野社長にインタビューしました。当社が製造や開発を手掛けているワイヤーハーネスは、各パーツをつなぎ電力や電気信号を送る電線の束で、人間の身体に例えると血管や神経の役割を果たす重要な製品です。創業の経緯や国内外の生産体制についてなど様々なお話を伺う事ができました。

○創業の経緯

創業者である私の父は、高校時代に部活動でラジオの組み立てに没頭しており、その趣味が専門知識へとつながり、1967年に地元の川俣町にカーステレオ用の電線加工の事業を立ち上げました。

社名の由来は、父が澄み切った朝に東の山々を眺めていると、光り輝くオレンジ色の大きな太陽が昇り、そこに一羽のハトが飛んでいる様子が重なった瞬間「よし、これだ」と閃き社名とロゴマークが決まったと聞いています。

個人企業として16名の従業員を抱え開業した翌年、従業員の団結力と信頼関係を築きたいと常々考えていた父は、当時では珍しかった社会保険に加入しました。この思いが社訓「和は力なり、共に信じ」に込められており、受け継がれています。

○福島から世界へ

日本が安定的な経済成長を続けていた1980年代、円高を背景に取引先メーカーが海外進出したことなどがきっかけとなり1987年に台湾で合弁会社を設立しました。以来、マレーシア、インドネシア、中国など東・東南アジアを中心とした国際ネットワークを30年以上にわたって構築して参りました。現在は、海外6拠点で現地スタッフ約3,000名が働いており、日本人駐在員10名が現地に合った経営戦略や現地スタッフとのコミュニケーションを図り運営しています。

○若い技術者の独創的な開発力を磨く

当社では、新入社員に業務内容を習得し早く実践に活かせるようOJT研修を実施しています。実際の業務において先輩社員の指導のもとで経験を積み、専門的な知識や必要なスキルを伸ばしていきます。また、入社2年目の社員を対象に海外視察研修も実施しています。自社



菅野 高延 代表取締役社長

の海外工場を視察することで、現場から学び、新たな「気づき」を得る機会となっています。

○より良い製品の生産を目指して

カーステレオ用の電線加工からスタートした事業は、エレクトロニクス分野を中心に、時代のニーズに合わせて技術開発を重ねています。当社が製造しているワイヤーハーネスは、民生用・車載用はもちろんのこと、医療や再生可能エネルギー分野など生活に必要な業界にも深く関与しています。ワイヤレスの時代ですが、セキュリティ面における安全性や受信速度の速さ、安定感など有線だからこそその強みがあります。車載用ワイヤーハーネスについては、品質に必要な熱衝撃試験や高周波試験など独自の検査基準を設けることで高い信頼性を実現し、国内はもとより世界中で高い評価をいただいています。

○人と夢と心をつなぐ

創業以来、企業理念である「英知と感性を融合し新技術開発を通して社会に貢献する」の体現を目指し、エレクトロニクス産業の先端に関わりながら歩んで参りました。当社が関わるエレクトロニクス分野は、医療・介護、地球環境保護・保全など、更なる分野に発展が見込まれています。長年培ってきた技術・ノウハウを基に、多角的な業容拡大を図り、社員一丸となり、「製品と製品」「福島と世界」「過去・現在・未来」「人と人」を「つなぐ」企業として皆様と共に歩んで参ります。



住 所 〒960-8031 福島市栄町12-21
 設 立 1967年9月
 従業員数 国内160名 全体約3,000名
 T E L 024-524-2111
 U R L <https://asahitsushin.com/>

